



特 許 願 (3)後記なし
昭和50年1月31日

① 日本国特許庁

公開特許公報

特許庁長官 斎藤英雄 殿

- 1 発明の名称 ヨソソウ 浴槽
- 2 発明者
住所 オオサカミナニワクフナデカウ
大阪市浪速区船出町2丁目2番地
クボタラック
久保田鉄工株式会社内
氏名 フナマツ ケイゴロウ
恒松 奎五郎 (ほか1名)
- 3 特許出願人
住所 大阪市浪速区船出町2丁目2番地
名称 (105) 久保田鉄工株式会社
代表者 代表取締役社長 廣 慶太郎
- 4 代理人 〒 662
住所 兵庫県西宮市門戸荘15番11号
氏名 (5906) 弁理士 清水 実

①特開昭 51-90661
④3公開日 昭51.(1976)8.9
②特願昭 50-13795
②2出願日 昭50.(1975)1.3/
審査請求 未請求 (全3頁)

庁内整理番号
7017 22

⑤2日本分類
/26 K220.1

⑤1 Int.Cl.²
A47K 3/02

50 013795

方 式 査 査 (

明 細 書

1. 発明の名称 浴槽

2. 特許請求の範囲

浴槽本体における四方側壁の外表面を、側壁上端から下端にかけて段下りの階段状としたことを特徴とする浴槽。

3. 発明の詳細な説明

本発明は浴槽に関するものである。

従来の浴槽は第2図に示すように、浴槽側壁110の上端にフランジ140を一体的に形成し、該フランジ140にエプロン3を取付けエプロン3と浴槽側壁110との間に断熱材としての発泡ポリウレタン、発泡ポリスチレン等4を充填した構造である。

しかしながら、エプロンを取付けた浴槽を運搬するためには、運搬時の衝撃でエプロンの取付状態が損なわれることのないように、エプロンの取付構造をそれだけ厳強にしなければならずエプロンの取付けがやつかいである。

従来、エプロンは浴槽側壁の粗面を外観から

遮蔽しかつ、その背部に保温層を設けるために取付けられているが最近では、風呂釜の熱効率向上されそれに伴って湯上り時間も短縮されているので、浴湯温度を長時間にわたって保温することの必要性はさして要求されない。

従来の浴槽においては、上記のようにエプロンの取付構造が複雑である、さして必要でない断熱層が設けられているといった不具合がある他、浴槽水圧に対する特別の補強手段は構じられておらず、浴槽厚さをかなり厚くする必要もあつた。

本発明に係る浴槽は、上述の点に鑑み浴槽側壁自体の外表面に、補強リブ効果を有する装飾を施してエプロンを省略したものであり、浴槽本体における四方側壁の外表面を側壁上端から下端にかけて段下りの階段状としたことを特徴とするものである。

以下、図面により本発明を説明する。

第1図において、1は浴槽本体であり、四方の側壁外面11は、側壁上端11aから下端11b

Best Available Copy

にかけて段下りの階段状に成形されている。12、12は相対向する浴槽側壁11、11の内面中間に必要に応じて設けられた段部であり、足踏板2が支承される。13、13…は浴槽の脚部14は浴槽の四方側壁上端に成形されたフランジであり、このフランジ14は省略することができる。上記の浴槽は、不飽和ポリエステル樹脂を含浸したプリプレグマツトをプレス成形することにより得られ、浴槽側壁外面の階段状化は、成形材に所謂、ヒケを生じさせることなしに、容易に行い得る。

本発明に係る浴槽は、上述した通り浴槽側壁の外面を階段状に成形したから、その外面は見映のよい外観を呈し、エプロンは省略できる。従つて、従来浴槽とは異なりやつかいなエプロン取付作業は不要である。また、浴槽側壁外面の階段状化により側壁には横方向の多数の凸部が形成され、これらの凸部が浴槽の水圧変形に対してリブとして作用する結果、浴槽の機械的強度も向上され得るといった利点がある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の浴槽を示す説明図、第2図は従来の浴槽を示す説明図である。

図において、1は浴槽本体、11は四方側壁である。

代理人 弁理士 清水 実

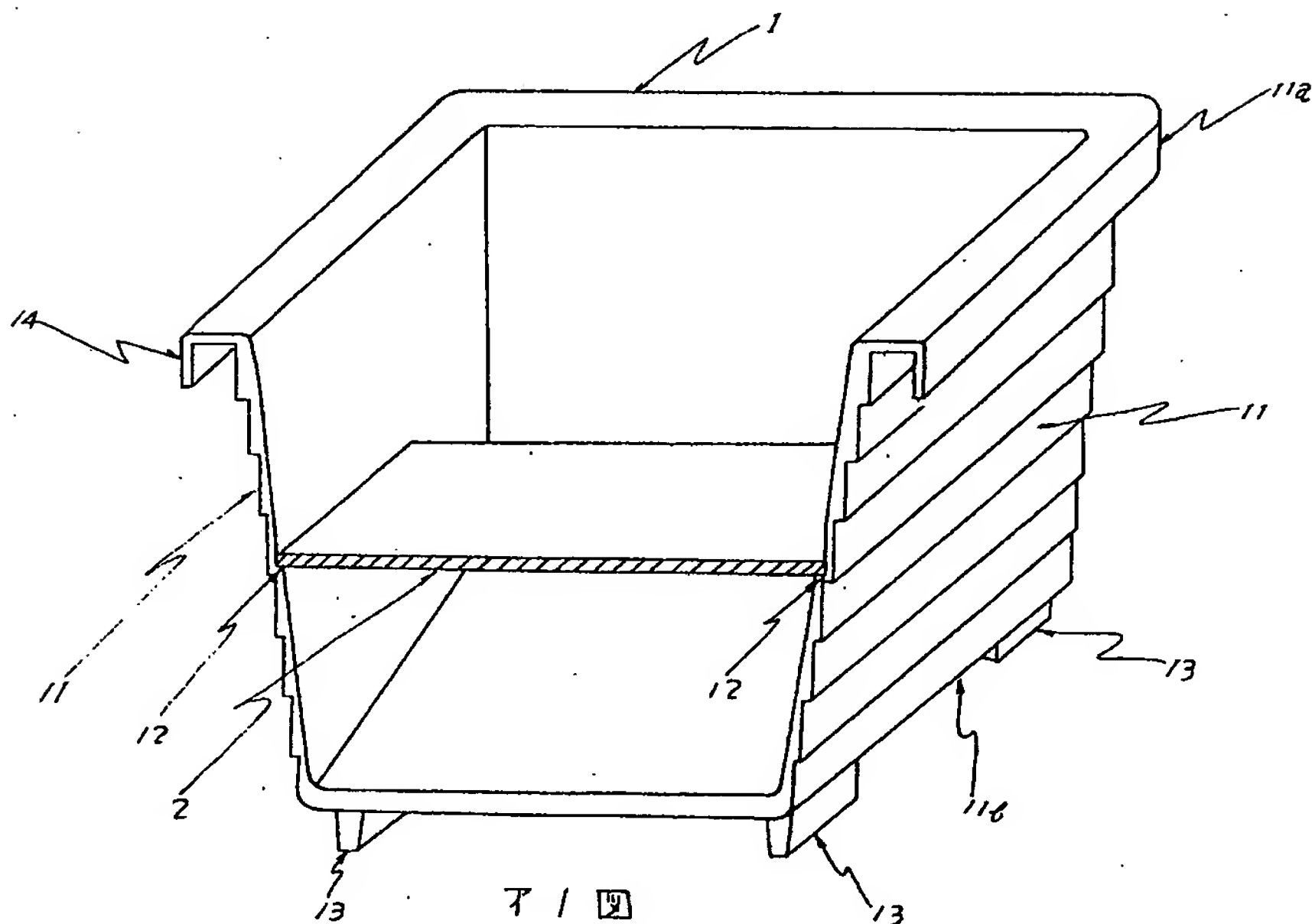


図1

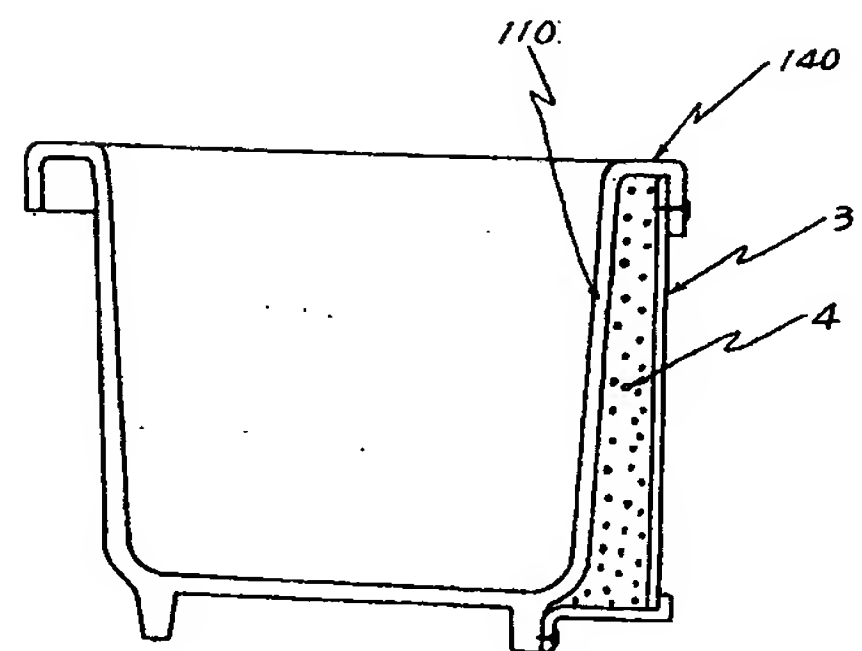


図2

5. 添附書類の目録

- (1) 明細書 1 通
- (2) 図面 1 通
- (3) 願書副本 1 通
- (3) 委任状 1 通

6. 前記以外の発明者

住所 オオサカシナニワノフナデナウ
大阪市浪速区船出町2丁目22番地
フガフテツク
久保田鉄工株式会社内
氏名 スズキエイイチ
鈴木英一

Best Available Copy